

『点訳フォーラム』より

【質問1】

『紫式部と藤原道長』(倉本一宏著)の中に位や役職名が数多く出てきます。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥、⑤令外官、⑥近衛将、⑦越後弁の切れ続きを教えてください。

語例集に「権の守」「右衛門佐」「太宰の■権の■帥」「令外官 リョーゲノ■カン」「越後弁殿」などの語例はありますが、「権、守、佐、帥、官、将、弁」は同じ漢字 1文字です。違いをどのように考えればいいのでしょうか。

【質問2】

「大納言の君、宰相の君、宣旨の君、中將の君」は点訳フォーラムのQ&Aの解説の通り、「ダイナゴンノ■キミ、サイショーノ■キミ、センジノ■キミ、チュージョーノ■キミ」に君のまえで区切って書いていいのでしょうか？大納言・宰相・宣旨は人名ではないのですが。

【回答1】

平安時代の役人の官位(四等官)は、かみ(頭、督、守)、すけ(助、佐、介)、じょう(允、尉、掾)、さかん(属、志、目)で表しますので、一般に官位としては前を区切って書いてよいと思いますが、ただ、役職名と合わせて略して呼ばれることも多く、規則として表すのは、むずかしいところです。

①備中権守、②右兵衛権佐、③右衛門権佐、④太宰権帥の「権」は臨時の官職で「仮に置かれた」というような意味ですので、ゴンノカミ、ゴンノスケと続けて書いてよいと思います。②右兵衛権佐は右兵衛府という役所の権佐、③右衛門権佐は、右衛門府という役所の権佐ということになります。④「太宰権帥」は、帥(そつ、そち)が太宰府だけの長官名で、太宰府の臨時の長官という意味ですので、ダザイノ■ゴンノ■ソツとなります。

⑤令外官は、正式に定められた以外の官職すべてをまとめてあらわし、具体的な官位・官職を示しているわけではありません。大宝令、養老令の外の官職・役所のことですので、リョーゲノ■カンとなります。

⑥近衛将は、近衛府の将(大将か中将)ですので、コノエノ■ショーとなります。

⑦越後弁は、大弐三位(紫式部の娘)を指す通称ですので、続けて書きます。「弁」は、近衛府の事務を司る役所・事務官をさしますので「頭の弁」などは続けて書いてよいと思います。

ご質問の文のなかで、1箇所、ウエモンノ■ゴンノ■スケとなっていたましたが、ゴンノスケです。語例集の右衛門佐(うえもんのすけ)は、右衛門佐局といわれた大奥の女中を指し、官位官職とは直接関係ありません。

そのほかは書かれていたマスあけでよいと思います。

- ①備中権守→「ビツチューノ■ゴンノカミ」
- ②右兵衛権佐→「ウヒョーエノ■ゴンノスケ」
- ③右衛門権佐→「ウエモンノ■ゴンノスケ」
- ④太宰権帥→「ダザイノ■ゴンノ■ソツ」
- ⑤令外官→「リョーゲノ■カン」
- ⑥近衛将 →「コノエノショー」
- ⑦越後弁→「エチゴノベン」

【回答2】

「君(きみ)」に関しては、Q&Aの通りで、「ダイナゴンノ■キミ、サイショーノ■キミ、センジノ■キミ、チュージョーノ■キミ」と書いてよいと思います。

大納言の君→「ダイナゴンノ■キミ」

宰相の君→「サイショーノ■キミ」

宣旨の君、→「センジノ■キミ」

中將の君→「チュージョーノ■キミ」

— 参考:『点訳フォーラム』より —

8.p88 2.敬称・官位など

源氏物語をテーマにした読み物で、紫式部・越後弁・中將の君・小式部・明石の上などが登場します。これらに「さん、様」が付いたときの切れ続きはどうなりますか。

「紫の上」は「ムラサキノウエ」と続けてありますが、「紫の君」・「若紫の君」は「紫の上」と同じ考えでよろしいでしょうか。そして、「明石の君」との違いはどのように考えたらよいでしょうか。

【A】

ムラサキ■シキブ、エチゴノベン、チュージョーノ■キミ、コシキブ、アカシノウエとなり、式部、弁、君、上などは、立場や役職などを示す普通名詞になりますので、「さん、様、」などは続けて書きます。「てびき」p90【備考1】に当てはまります。

越後弁殿(エチゴノベンドノ)、明石の君(アカシノ■キミ)、葵の上(アオイノウエ)などが、「点訳フォーラム」の「点字表記の語例」にありますので、参考になさってください。

「君(きみ)」、「上(うえ)」は、どちらも敬意を込めた言い方ですが、この場合は、語としての自立性が異なります。「君」は、人名や役職名に付く尊敬語で、具体的な意味を持つ名詞ですので、「君」の前で区切って書きます。「上」「方」などは、方向を示す言葉を用いて間接的に「夫人」「奥方」を示す使い方です。この場合の「上」「方」は接尾語的で、「～の上」「～方」までを含めて1語になっていますので、助詞の「の」も含めて一続きに書きます。



